

6月のアルミレポート及び7月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



■概況

【自動車】5月の四輪車生産台数は69万3013台で、前年同月比+5.5%となり8カ月連続。前年同月を上回った。輸出は32万255台で前年同月比5.8%の増加。

【販売】6月の国内自動車販売台数(軽は除く)は31万5744台で前年比+9.7%。9カ月連続プラス。内訳は、乗用車+10.3%、貨物+5.6%、バス+12.8%。

【住宅】▷平成29年5月の住宅着工戸数は78,481戸で、前年同月比で0.3%減となった。また、季節調整済年率換算値では99.8万戸(前月比0.6%減)となった。▷住宅着工の動向については、前年同月比で3か月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比1.5%増、季節調整値の前月比では2.9%増)。

(貸家)前年同月比では19か月連続の増加(前年同月比1.6%増、季節調整値の前月比では0.7%増)。

(分譲住宅)前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比3.9%減、季節調整値の前月比では5.7%減)。▷分譲マンション：前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比12.6%減)。▷分譲一戸建住宅：前年同月比では19か月連続の増加(前年同月比4.5%増)。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-0.04%の6万684t。7カ月ぶりマイナス。出荷は+0.5%の6万854t。4カ月連続プラス。出荷先の内訳は、鋳物+49%、ダイカスト-22%、板類+126%、鉄鋼+4%、合金地金メーカー+1%、輸出+10%。

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+3.8%の17万6300t。7カ月連続プラス。板類の生産は7ヶ月連続でプラス。出荷は3ヶ月連続にプラス。

缶材は、40,516トン(▲2.4%)。5月のビール系飲料の販売量は6月の酒類販売規制前の買いだめ特需によりプラスとなったが、缶メーカーの在庫調整によりマイナスとなった。

自動車は、14,240トン(10.1%)。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、3ヶ月連続でプラス(4月の軽自動車を除く国内乗用車生産は台数：528千台、前年同月比：+15.3%)。

輸出は、17,312トン(▲3.5%)。2ヶ月連続でマイナス。

押出類は、生産・出荷ともに7ヶ月連続でプラス。

建設は、35,747トン(2.7%)。東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向けの需要増により3ヶ月連続でプラス

自動車は、11,479トン(13.0%)。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調が継続し、7ヶ月連続でプラス。

【輸出】アルミ新地金が前年比-37.5%の98t。二次合金が-36.6%の2291t。スクラップが-18.6%の7775t。アルミ缶が+11.5%の5704t。

【輸入】アルミ新地金が前年比+11.9%の14万4842t。二次合金が+19%の10万6784t。スクラップが+37.4%の691t。合金スクラップが+43.9%の3882t。

■見通し

▷自動車は生産が+5.5%。国内販売台数が前年比+9.7%。生産が8カ月連続プラス。販売も9カ月連続プラス。生産、販売共に増加しており今後も期待。▷住宅着工の動向については、前年同月比で-0.3%と前月の微増から再び微減になっており、下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。▷アルミ圧延・押出生産数は、板類・押出生産合計が前年比+3.8%、17万6300t。7カ月連続プラス。今後も期待。▷アルミニウム2次合金同合金地金等生産実績は、前年比-0.04%の6万684t。7カ月ぶりマイナス。▷出荷は+0.5%の6万854t。4カ月連続プラス。微減ではあるが2次合金生産量が7か月ぶりにマイナスへ。今後の動向に注目。▷アルミ輸出は内需用途から全体に減少。アルミ缶は韓国への輸出から増加。▷アルミ輸入は輸入塊の価格下落を受けて増加。

■価格・為替予想

今月は中国秋の指導部交代に向けての経済対策、オバマケア代替法案審議を含む米議会の採決の動向に左右される。

秋の中国指導部交代に関しては、金融引き締め緩和や新たな送電線計画が発表されるなど経済の安定をねらった政策が今後も発表されるのではないかと。

米議会に関しては、経済界には当たりがよいものの肝心の白人中間層のトランプ政策離れが進んでおり一層ねじれが進むのではないかと。

それらを踏まえた7月のアルミ価格は、指導部交代に向けた景気対策が新たに発表され、オバマケア代替法案が議会の通過した場合、6月高値の2000ドルを予測。いずれかの場合は1900ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合5月一段安値の1800ドル。

為替は、NYダウの高値更新と英国のユーロ離脱関連に左右される。

NYダウは好調な米経済を受けて今月はさらに高値更新するのではないかと。

英国の離脱関連は、そろそろ現実味を帯びた発表がなされておりユーロ安ドル高がすすむのでは？

それらを踏まえ予測は、NYダウが最高値を更新し英国のユーロ離脱関連でマイナス材料がなかった場合 高値は6月後半高値一段高の110円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合 安値の114円台を予測。

ただし4月頃から安い輸入塊が入港されており、国内スクラップ価格は相場とは裏腹に下落傾向。スクラップ購買価格に関しては、-5~-10円程度と予測している。